

松江市史 通史編2 中世

目 次

口 紹	
発刊にあたつて	
目 次	
凡 例	
概 観	1
中世とは／日本中世社会の歴史的特徴／アジア・世界の中の日本中世社会／中世出雲国・松江地域の歴史的特徴／本巻の課題と特徴／本巻の構成	18
第一章 中世社会の成立	2
本章の主題と主な内容	
	14

第一節 中世の始まり	15
一 院政の始まり	15
白河天皇の譲位／院の権勢／摂関家の衰退	
二 院政を支えた人々	18
院の近臣／院庁と院司／院の殿上人と北面	
三 院政期の国政	19
院御所の議定／院政期の政務	
四 知行国制度と出雲国	21
国司制度の変質／出雲国の受領と知行国主／受領・知行国主と朝廷の経済／受領・知行国主の国務／出雲国衙と在庁官人	
五 荘園公領制	26
公領（国衙領）とその支配／中世莊園の成立／莊園公領制	
六 武士の登場	30
律令軍制の崩壊／兵の登場／出雲押領使清瀧静平	
第二節 院政の展開	33
一 平正盛の源義親追討	33
源義親の出雲目代殺害／義親の拠点雲津浦／因幡守平正盛による追討／乱後の山陰道	
二 枢築大社と出雲国衙	37
一宮としての枢築大社／枢築大社領の形成／藤原頼頼の枢築大社造宮／藤原光隆の枢築大社造宮／枢築大社の神事と国衙	

三	鳥羽院政から後白院政へ	42
	鳥羽院政／撰閥家の分裂	
四	莊園の成立	45
	莊園の登場／杵築大社の莊園化／杵築大社の莊園化の背景	
	第三節 武家政權の成立	51
一	平氏政權の成立	51
	平清盛の躍進／平氏政權と出雲の武士／出雲の武士のネットワーク	
二	治承・寿永の内乱	53
	治承三年の政変／諸国の蜂起／木曾義仲と山陰道	
三	鎌倉幕府の成立と出雲国	57
	杵築大社の動搖／出雲自代の罷免／守護の設置／地頭の設置／国造出雲氏の御家人化／受領・知行国主 と在序官人	
	第四節 幕府と朝廷	71
一	承久の乱	71
	出雲の武士の動向／新地頭の設置／在序官人の没落／東国御家人と出雲の御家人	
二	幕府権力と出雲国	71
	執權政治と幕府法廷の整備／六波羅探題と出雲国	
三	出雲守護佐々木氏	78
	守護の活動／京・鎌倉における佐々木氏／守護代と守護郡使／出雲国内の佐々木氏の所領	
四	杵築大社造営と幕府	86

目 次

嘉禄・宝治の造営／知行国主・国衙による造営／幕府の関与	88
五　国衙と府中	94
受領と知行国主／在庁官人／出雲府中／国造出雲氏の府中諸社掌握	94
第五節　鎌倉後期の社会変動	94
一　モンゴル襲来	94
北条得宗家の政権掌握／北条得宗家と出雲国／使者の来航／杵築大社頭役結番帳／文永の役と異国征伐 計画／石築地の造営／西国守護の一斉交代／弘安の役と兵糧米賦課／異国降伏の祈祷と寺社	94
二　社会の動搖	102
天皇家の分裂／進まない杵築大社造営／悪党と違勅人／末次荘・法吉荘の下地中分／売却される所領／ 大野荘をめぐる相論	102
三　鎌倉幕府の滅亡	114
後醍醐天皇の登場／正中・元弘の討幕計画／後醍醐天皇の隠岐配流／北条得宗政権の崩壊	114
第二章　中世社会の構造	120
本章の主題と主な内容	120
第一節　莊園公領制	121
一　莊園公領制とは	121
莊園公領制／中世的郡郷制の成立／莊園の増加と国衙	121
二　大田文と国衙支配	121
大田文	124

第二節 国衙と公領

一 郡・郷・保と郡司・郷司・保司

大名田堵と小名田堵／保と保司

二 名体制と中世村落

名田の成立／百姓と中世村落の成立

三 国衙免田・別名・別符

国衙免田／別名／別符

第三節 荘園の仕組み

一 寄進と立莊

寄進と立莊／権門と莊園

二 荘園の領有体系

三 預所・下司・公文と莊園經營

四 名主

五 荘園と国衙

第四節 荘園公領制の変容

一 武家領・本所一円地体制

莊園公領制の変化／武家領と本所一円地

二 南北朝内乱と半済令

南北朝内乱の影響／半済令／室町期の状況

三

御料所

第五節 松江市域の莊園・公領	144
一 郡ごとの概況	144
莊園と公領の区別／人名表記の意味	144
二 意宇郡	146
莊園／公領	146
三 島根郡	155
莊園／公領	155
四 秋鹿郡	162
莊園／公領	162
第六節 莊園・公領支配の推移	165
一 捩屋社	165
莊園の成立／杵築大社との関係	165
二 佐陀社	167
佐陀社の成立／佐陀神主／守護と戦国大名の支配	167
三 加賀莊	171
加賀莊の成立／中世後期の加賀莊	171
四 末次保	176
末次保の成立／中世後期の末次莊	176
第七節 空間としての莊園・公領	178
一 長田西郷と東郷	178

西長田郷長田氏／長田西郷の村落／長田東郷の景観

- 二 持田莊……………
中心地域／周辺地域
三 大野莊……………
大野莊西方／大野莊東方／大野氏

- 四 法吉莊と末次保……………
法吉莊／末次保／末次氏とその一族
五 意東莊……………
意東莊の景観／意東莊の住人

- 六 来海莊・宍道郷と宍道氏……………
結番帳の編成法／意宇郡西部の所領／神社と館／出雲大社領伊志見郷／佐々布郷と大守社／来海莊と別府氏／来海莊から宍道郷へ／宍道郷／来海莊と宍道郷／佐々布氏／宍道氏の系図／宍道氏の入部／外様衆宍道氏／惣領の交代／宍道隆慶

第八節

身分と家

- 一 中世の身分制……………
二 中世の被差別身分……………
中世の非人／河原ノ者／出雲国の状況
三 家の成立……………
一族の成立
四 所領の譲与と配分……………
武家社会と相続／貴族社会と相続
230 229 228 226 225 225 210 203 200 193 190

六 女性の地位
別府左衛門妻／大西二郎女子／秋鹿二郎女子

第三章 中世後期の出雲と地域権力

本章の主題と主な内容	233
第一節 南北朝内乱と出雲国	236
一 建武の新政	237
二 南北朝内乱の始まり	237
足利尊氏の離反と南北朝の分裂／出雲の領主層の動静／塙治高貞の滅亡／佐々木尊誉の守護就任／出雲の所領問題と南北両朝	241
三 観応の擾乱と出雲	241
対立の構図と展開／反幕府方の活動と出雲	241
四 京極氏・山名氏の出雲支配	251
佐々木京極氏の出雲支配／山名氏の出雲守護就任／明徳の乱の勃発	251
第二節 室町幕府——守護体制と出雲	251
一 京極氏による出雲支配の確立	257
京極高誼の出雲守護就任／室町幕府——守護体制の確立と京極氏／守護代・守護被官の派遣	257
二 京極氏による分国経営	263
莊園制・權門体制の保全／国人領主の把握／寺社勢力の統制／【コラム①】連歌師梵灯	263

第三節 応仁の乱と出雲

一 室町幕府——守護体制の変質

嘉吉の乱と幕府政治の動搖／京極持清の在京活動と多賀高忠／京極氏による出雲支配の進展

二 応仁の乱の勃発と出雲の戦乱

京都の戦乱／出雲の戦乱と尼子氏／京極持清の死と近江の戦乱／京極政高の出雲下向

三 大乱後の権力秩序の再編

応仁の乱終結後の社会／尼子経久退治命令

第四節 尼子氏の強大化と出雲

一 京極氏から尼子氏への国成敗権の移動

近江における両京極氏の戦闘／出雲における幕府——守護支配の再建／京極政経の死／尼子氏による国

成敗権の掌握

二 尼子氏の軍事進攻と近隣諸国

大内氏・山名氏との対立／尼子氏の安芸進出と安芸国衆／備中・備後への侵攻

三 尼子氏と大内氏の対立状況の緩和

塩治興久の反乱／尼子氏の東方遠征／尼子氏と毛利氏の決裂

四 尼子氏と大内氏の軍事衝突

尼子氏の遠征と畿内情勢／尼子氏の進攻と郡山城合戦

五 尼子経久の人物像と諸政策

尼子氏拡大の要因／尼子経久の戦争／寺社政策／惟高妙安と尼子経久／【コラム②】朝山日乗

目 次

第五節 戦国の争乱の激化	347
一 戦国期の諸勢力と尼子氏権力	347
大内義隆の富田城攻め／尼子氏家臣団と有力国衆／三沢氏の圧迫／細川晴元と細川氏綱／八か国守護職	354
二 尼子氏と大内氏の衰退	354
芸備方面における尼子氏の衰退／新宮党の滅亡／厳島合戦と大内氏の滅亡／毛利氏による石見銀山の掌握	354
三 尼子氏と毛利氏の攻防	354
毛利氏の出雲侵攻／富田城籠城戦の展開／尼子勝久の「御一家再興」戦争／毛利氏包閃網／富田城攻防戦／再興戦争の展開／毛利氏の出雲国支配／権力交代期の給地差合問題	354
第六節 織豊政権と毛利氏領国	373
一 戦国争乱の広域化	373
羽柴秀吉との和睦／天下一統と出雲国／天正年間の所領配置	373
二 豊臣政権下の毛利氏領国	373
毛利氏包閃網の形成／足利義昭の駄下向／戦局の転換／織田・毛利戦争と地域社会	373
三 物国検地と防長移封	373
毛利氏の惣国検地／惣国検地後の所領構成／朝鮮侵攻と関ヶ原合戦	373
第四章 中世の経済と社会	394
第一節 中世の生活と環境	394
一 人々の暮らしの変容	394
本章の主題と主な内容	394

「惣村」の成立／中世の市／貨幣の普及／物流の広域化

二 気候・災害・戦乱・環境

飢饉と戦乱／海水面の変動／木材の消費

三 中世松江地域の景観

大山寺縁起絵巻の風景／「松江潟」の復元／近世城下町形成前の景観

第二節 中世水運の展開と港湾都市の形成

一 内海の諸港湾

古代・中世の内水面交通／中世の内海水運／中海西南岸地域の港湾群／内海水運を基盤とする諸勢力／陸路と水路の交錯

二 中世西日本水運の展開

古代からの遠隔地間交流／中世西日本海水運の成立／大陸と山陰海岸の通交／日常的交流・物流の拡大

三 港町の形成と展開

内海港湾都市の形成／港町白潟の住人と諸権力／中世港町白潟の輪郭

第三節 生業の展開と地域社会

一 多様な生業の展開

貢納物としての產品／鉄／塩／絹糸・絹布／紺染／番匠／漁撈／白潟・末次の職人たち

二 寺社造営と地域社会

天正十一年神魂社造営／造営段銭と地域社会／地域社会が支えた造営事業

三 石見産銀の輸出と地域経済の変動

石見銀山の開発と銀輸出／唐船・北国舟の着岸／明の文献に表れる港湾都市群

第四節 城館遺跡からみた中世の松江地域	468
一 城館遺跡の概要	468
市内の城館遺跡／遺跡の種類と特徴	
二 居館と山城	473
黒田館とその強化／茶臼山城の築造と改修	
三 尼子氏の国内平定戦と山城	476
尼子清貞の国内平定戦／春日城の築城と改修／二つの京羅木山城	
四 雲芸攻防戦と山城	480
毛利元就の戦略構想／白鹿城の築城と拡充／白鹿山城砦群の攻防／荒隈城の縄張りと普請／荒隈城の機能の変化／和久羅城の変遷	
五 尼子家復興戦と山城	493
尼子家復興戦と戦後の真山城／満願寺城の築城と改修／熊野城の構造	
六 山城の終焉	500
第五節 考古資料からみた中世の松江地域	509
一 遺跡からみた出雲府中	509
古代の国府から中世府中へ／府中域の役所と官人屋敷／府中の中世墓／祭祀に関わる遺跡／出雲府中のその後	
二 中世の墓地	516
概要／火葬墓／土葬墓	

三 中世の石塔

概要／五輪塔／宝篋印塔

第五章 中世の宗教と文化

本章の課題と主な内容 522

第一節 古代から中世への宗教構造の転換 530

一 出雲国造の西遷とその歴史的背景 532

出雲国造の西遷／国造西遷の歴史的背景

二 杵築大社の転換 532

杵築大社と鷲淵山聖／鷲淵山の歴史的位置

第二節 中世的宗教構造の成立と特徴 536

一 中世の杵築大社と出雲府中 541

中世諸国一宮制／物社制／中世出雲府中の歴史的位置

二 中世宗教構造の基本骨格としての顕密体制 547

中世宗教構造の歴史的特徴／顕密体制／寺院と神社の関係／顕密仏教のもう一つの特徴

三 中世神社の諸類型と具体相 541

中世神社の諸類型／神魂神社（伊弉冉社）／物社（六所神社）／伊弉諾社（真名井社）／揖屋神社／平

浜八幡宮／熊野神社／佐草神社（八重垣神社）／佐陀神社／賣布神社

四 中世寺院の諸類型と具体相 565

中世寺院の諸類型／杵築大社と鷲淵寺／「神仏隔離」原則に基づく「神仏習合」／国分寺と八幡宮寺／

							宗派別の寺院／莊鄉寺院と旦那寺・菩提寺／年中行事の概要／年中行事の意味するもの
第三節 中世的宗教構造の変容と解体							
一	佛教改革運動と禅律僧の活躍	584					
二	佛教改革運動と律宗／禪宗の發展／枕木山華藏寺／宝龜山安國寺／國際交流と都鄙間交流						
三	鎌倉新佛教の成立と展開	590					
四	鎌倉新佛教の登場／松江市域内の諸特徴						
五	中世諸国一宮制の変質と解体	594					
	南北朝から室町期／戦国期—尼子・毛利氏の宗教政策／戦国期の神魂神社と意宇六社／戦国期の佐陀神社／鰐淵寺と大庭地域						
四	吉田神道の成立と寺社造営のラッシュ	601					
五	吉田神道の成立／戦国期の宗教的熱狂／寺社造営のラッシュと教団（宗派）の成立						
	顯密体制の解体とその歴史的特徴						
	顯密体制の解体／出雲国・松江市域の歴史的特徴						
第四節 松江と中世文学・芸能							
一	文 學						
1	和 筆						
2	隨 筆						
3	說 話						
4	記 記						
5	連 歌						
619	618	617	617	613	613	612	607
601							
590							
584							

二　芸能	66	紀行文
	77	寺社縁起
88	軍記物語など	
二　芸能	66	紀行文
11	舞　　樂	
22	細男・田楽	
33	神　　樂	
	湯立神樂／七座の神事／面神樂／佐陀神能	
44	猿　　樂	
	荒隈城での演能／『花伝抄（八帖本花伝書）』（雲州松平家文庫）／【コラム③】軍記にみる母親像	
第五節 美術から見た中世の松江	635	
	松江市内の概要／美術史における作者の問題／仏谷寺の仏像／松江に残る優れた仏像／松江市に残る神像／松江市に残る絵画／八重垣神社の板壁画／佐太神社の古神宝／そのほかの古神宝	
松江市域内の中世神社一覧	631	
松江市域内の中世寺院一覧	627	
年中行事一覧	626	
中世棟札一覧	626	
	624	
	622	
	620	

目 次

参考文献一覽	689
松江市史編纂関係者名簿	699
執筆分担	701
協力者一覽	702
写真提供者一覽	79
年 表	44
索 引	1